



2012年3月5日
(2012年12月13日更新*)

「クラウド利用動向に関するアンケート調査」

クラウドの利用動向をシステム種別毎に見ると、情報系システムのみならず、
企業活動を支える基幹系システムに多く活用されており、
いまやクラウドコンピューティングという形態が国内にかなり浸透してきている。

株式会社NTTデータ経営研究所

株式会社NTTデータ経営研究所(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:豊田 充、以下 当社)は、NTTレゾナント株式会社が提供する「goo リサーチ」登録モニターを対象に、このたび「クラウド利用動向に関するアンケート調査」を実施しました。

クラウドコンピューティングの利用は年々増加しており、今後もこの流れは続くものと思われます。クラウドを効果的に活用するためには、保有するシステムがクラウドの利用に適しているのか、効果とリスクを適切に捉えて判断することが重要であると考えます。そこで、今回は、システムの種別単位にクラウドに対する期待やリスク(懸念事項)を捉えることをテーマに調査を行いました。

【主な調査結果】

1. クラウドの利用状況

■ クラウドは、基幹系(事業活動)システムの利用が最も多い。…………… 参照 p.6

2. クラウドに期待する効果

■ クラウドに期待する効果は、「コスト削減・可視化」が最も多い。次いで、「利便性・機能向上」、「システム管理負担の軽減」、「業務継続性やシステム信頼性の向上」に対する期待が上位となっている。…………… 参照 p.7、p.9

■ SaaS*(パブリッククラウド)に対する期待は、基幹系システム全般及び情報系システム全般では「利便性・機能向上」が大きいのに対し、基盤系(インフラ関連)システムでは「システム管理負担の軽減」に対する期待が大きいというように、システム種別による違いが存在した。…………… 参照 p.7

■ PaaS/IaaS*(プライベートクラウド)に対する期待は、基幹系システム全般及び情報系システム全般では「利便性・機能向上」及び「システム管理負担の軽減」が同程度に大きいのに対し、基盤系システム(インフラ関連)では「システム管理負担の軽減」に対する期待が他の効果と比較して大きいというように、システム種別による違いが存在した。…………… 参照 p.9

■ 公共分野では、基盤系(インフラ関連)のクラウド化に「セキュリティレベルの向上」を期待する傾向にあり、金融分野では、基幹系(事業活動)システムのクラウド化に「業務継続性やシステム信頼性の向上」を期待する傾向にある等、クラウドへの期待に関して業種による捉え方の違いが存在した。…………… 参照 p.8、p.10

3. クラウド利用時に想定されるリスク

■ クラウド利用時に想定されるリスクは「セキュリティに対する不安」が最も多い。次いで「個人情報・機密情報の所在が不明」、「クラウド事業者の事業継続性への不安」、「レスポンスの低下」等のリスクが上位となっており、システム種別による違いはあまり見られなかった。…………… 参照 p.11、p.13

- 公共分野では、情報系(データ分析・管理)システムのクラウド化に「個人情報・機密情報の所在が不明」であるリスクを重要視し、金融分野では、基幹系(事業活動)システムのクラウド化に「サービスレベル・柔軟性の低下」に対するリスクを重要視する等、クラウドへの期待に関して業種による捉え方の違いが存在した。・参照 p.12、p.14

4. クラウドの利用に至った理由

- クラウド利用に至った理由は「クラウドによりコスト削減できることが明らかになったため」が最も多い。
- システム種別によっては、コスト以外の要因がクラウドの利用可否の判断に大きく影響している場合もある。……………参照 p.15
- 基幹系(事業活動)システムのクラウド化においては、コスト以外の判断要素として、金融分野は他社事例を重視し、製造分野は機能を重視する等、クラウド利用可否の判断に関して業種による捉え方の違いが存在した。……………参照 p.16
- SaaS(パブリッククラウド)利用の判断理由として、大企業はコストを重視し、中堅・中小企業は事業への貢献を重視する傾向が強い。……………参照 p.17

※SaaS/PaaS/IaaS とは (出典:総務省・スマートクラウド研究会報告書)

- ・SaaS(ソース:Software as a Service): アプリケーション(ソフトウェア)をサービスとして提供する
- ・PaaS(パース:Platform as a Service): アプリケーションを稼働させるための基盤(プラットフォーム)をサービスとして提供する
- ・IaaS(イアース:Infrastructure as a Service): サーバー、CPU、ストレージなどのインフラをサービスとして提供する

なお、本調査では「SaaS(パブリッククラウド)」「PaaS/IaaS(プライベートクラウド)」を、以下のように定義した。

	SaaS(パブリッククラウド)	PaaS/IaaS(プライベートクラウド)
アプリケーション	アプリケーションはクラウド事業者から提供されるアプリケーションを他社と共用する。	アプリケーションはパッケージを導入、または独自に開発したアプリケーションを載せて利用する。
インフラストラクチャ	IT プラットフォーム(HW/OS/ミドルウェア/認証・アクセス制御/サービス連携/運用支援等)およびビジネスプラットフォーム(ユーザ管理/課金・決裁/ヘルプデスク等)がクラウド事業者から提供される。 IT プラットフォームおよびビジネスプラットフォームともに他社と共用する。	IT プラットフォーム(HW/OS/ミドルウェア/認証・アクセス制御/サービス連携/運用支援等)およびビジネスプラットフォーム(ユーザ管理/課金・決裁/ヘルプデスク等)がクラウド事業者から提供される。 IT プラットフォームは自社の占有環境となる。
施設	データセンタ等の提供施設は他社と共用する。	データセンタ等の施設を他社と共用するケース(事業者が提供)と社内施設を利用するケース(自前)がある。

【本件に関するお問い合わせ先】

<p>■ 報道関係のお問い合わせ先</p> <p>株式会社NTTデータ経営研究所 プラクティスサポート部 井上 国広 Tel:03-5213-4170 E-mail: webmaster@keieiken.co.jp</p>	<p>■ 内容に関するお問い合わせ先</p> <p>株式会社NTTデータ経営研究所 パートナー 田畑 昌生 マネージャー 中西 淳一 マネージャー 富安 昭亙 コンサルタント 小酒井 一穂 Tel:03-5213-4130</p>
--	---

*更新箇所

「【図表 2-1】 SaaS(パブリッククラウド)利用時に期待する効果」(P.7)、「【図表 2-3】 PaaS/IaaS(プライベートクラウド)利用時に期待する効果」(P.9)の、「基幹系(共通業務)」の図表、それに伴う P.1、P.7、P.9 の小見出しと P.7、P.9 の説明文

目 次

調査概要	4
------------	---

調査結果	6
------------	---

	<u>ページ</u>
1. クラウドの利用状況	6
1.1 SaaS(パブリッククラウド)の利用状況	6
1.2 PaaS/IaaS(プライベートクラウド)の利用状況	6
2. クラウドに期待する効果	7
2.1 SaaS(パブリッククラウド)に期待する効果	7
2.2 PaaS/IaaS(プライベートクラウド)に期待する効果	9
3. クラウド利用時に想定されるリスク	11
3.1 SaaS(パブリッククラウド)利用時に想定されるリスク	11
3.2 PaaS/IaaS(プライベートクラウド)利用時に想定されるリスク	13
4. クラウドの利用に至った理由	15
4.1 SaaS(パブリッククラウド)の利用に至った理由	15
4.2 PaaS/IaaS(プライベートクラウド)の利用に至った理由	18

調査概要

- 1.調査対象: gooリサーチ^{注1}登録モニター
 2.調査方法: 非公開型インターネットアンケート
 3.調査期間: 2011年11月30日～2011年12月6日
 4.有効回答者数: 1,006人
 5.標本設計: 従業員規模300人以上の企業に勤務する社員のうち、自社内におけるITシステム導入に関して、「決定する立場にある」または「導入検討し推薦する立場にいる」社員を対象。1社1名のみ抽出。
 6.回答者の属性: <業種>

全体	1,006人	100.0%
農林水産	2人	0.2%
鉱業・電力・ガス/その他エネルギー	12人	1.2%
建設・土木・住宅・プラント	51人	5.1%
不動産	14人	1.4%
製造	311人	30.9%
運輸・倉庫・郵便業	36人	3.6%
商業・卸売・小売	57人	5.7%
飲食店	4人	0.4%
金融・保険・投資、共済	67人	6.7%
通信・IT関連サービス	166人	16.5%
その他のサービス	58人	5.8%
新聞・出版・放送	4人	0.4%
保険・医療・福祉関連	58人	5.8%
学校・教育	43人	4.3%
研究開発・研究機関	11人	1.1%
政府・地方公共団体・各種法人・団体等	107人	10.6%
その他	5人	0.5%

<企業:資本>

全体	1,006人	100.0%
～500万円未満	3人	0.3%
500～1,000万円未満	3人	0.3%
1,000～2,000万円未満	11人	1.1%
2,000～3,000万円未満	6人	0.6%
3,000～5,000万円未満	16人	1.6%
5,000万円～1億円未満	48人	4.8%
1億円～3億円未満	78人	7.8%
3億円～10億円未満	90人	8.9%
10億円～100億円未満	198人	19.7%
100億円～500億円未満	154人	15.3%
500億円～1,000億円未満	63人	6.3%
1,000億円以上	155人	15.4%
該当なし	181人	18.0%

<従業員規模>

全体	1,006 人	100.0%
300 人以上 500 人未満	98 人	9.7%
500 人以上 1,000 人未満	230 人	22.9%
1,000 人以上 5,000 人未満	361 人	35.9%
5,000 人以上 10,000 人未満	143 人	14.2%
10,000 人以上	174 人	17.3%

【補足】

注 1 「goo リサーチ」 <http://research.goo.ne.jp/>

ポータルサイト「goo」を運営する NTT レゾナントが企画・実査・集計を行う、高品質で付加価値の高いインターネットリサーチ・サービス。携帯電話でアンケートに答える「goo リサーチ・モバイル」モニター(14.1 万人)、キーパーソンのビジネスマンを中心とする「goo リサーチ・ビジネス」モニター(8.8 万人)、団塊世代・シニア層、ならびに若年層を中心とした郵送調査手法で回答する「郵送調査専属モニター」(3.5 万人)を含め、総計 705 万人の登録モニターを擁し、消費者向け調査から、法人向け調査、グループインタビューまで、さまざまな市場調査ニーズに対応している。(モニターの人数は 2012 年 3 月現在)

* 小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%とまらない場合がある。

【詳細】

- 従業員規模 300 人以上の企業に勤務する社員のうち、自社内における IT システム導入に関して、「決定する立場にある」または「導入を検討し、推薦する立場にいる」社員を対象とし、1 社 1 名のみ抽出。
- 自社にて運用しているシステム毎に、「SaaS(パブリッククラウド)」および「PaaS/IaaS(プライベートクラウド)」のそれぞれにおいて、クラウドの利用状況、クラウドに期待する効果、クラウド利用時に想定されるリスク、クラウドの利用に至った理由を尋ねた。
- システム単位に調査した回答を「基幹系(共通業務)」、「基幹系(事業活動)」、「情報系(社内向け・オフィス業務)」、「情報系(社外向け)」、「情報系(データ分析・管理)」、「基盤系(インフラ関連)」の 6 区分毎に集計し、分析を行った。

システム区分		対象システム
基幹系	共通業務	財務会計システム
		人事・給与システム
		販売管理・契約管理システム
	事業活動	建設業系システム
		卸売・小売業系システム
		金融・保険業系システム
		飲食店・宿泊業系システム
		医療・介護・福祉系システム
		教育・学習支援系システム
その他サービス業務系システム		
情報系	社内向け・オフィス業務	デスクトップ PC
		メール・グループウェア
		社内ポータルサイト
	社外向け	EC システム
		営業支援システム(SFA)
	データ分析・管理	顧客管理システム(CRM)
基盤系	インフラ関連	データ分析・活用システム(BI/DWH)
		ネットワーク関連システム(DNS/DHCP 等)
		運用・セキュリティ関連システム

調査結果

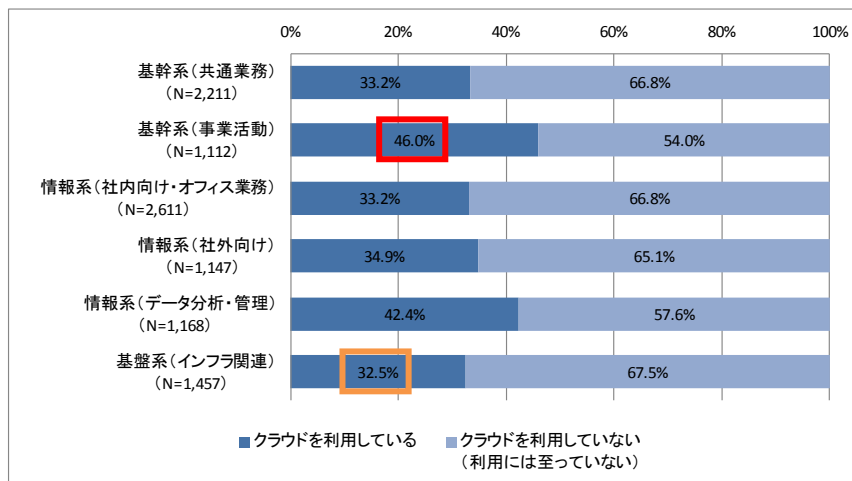
1. クラウドの利用状況

1.1 SaaS(パブリッククラウド)の利用状況

- ◆ SaaS(パブリッククラウド)は基幹系(事業活動)システムの利用が最も多い。

利用するシステム毎に SaaS(パブリッククラウド)の利用状況を尋ねたところ、基幹系(事業活動)システムが最も高く 46.0%、基盤系(インフラ関連)システムが最も低く 32.5%という結果になった。【図表 1-1】

【図表 1-1】 SaaS(パブリッククラウド)の利用状況



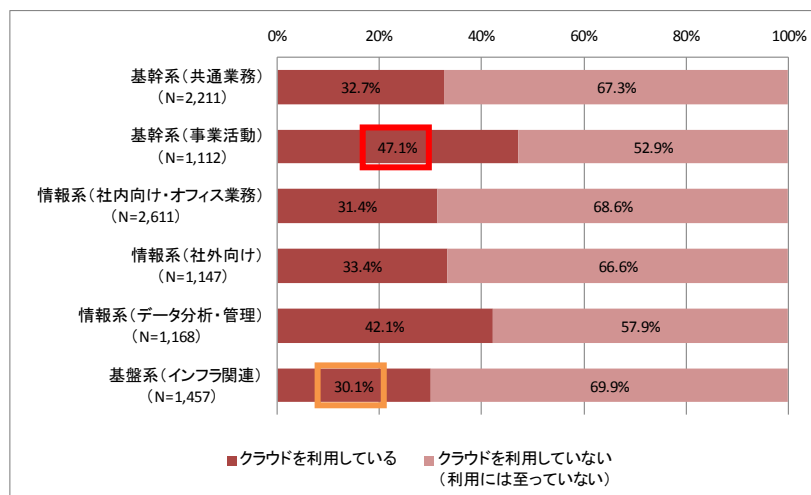
*システム単位に調査した回答をシステム区分毎に合計しているため、N が母数より多くなっている。

1.2 PaaS/IaaS(プライベートクラウド)の利用状況

- ◆ PaaS/IaaS(プライベートクラウド)は基幹系(事業活動)システムの利用が最も多い。
- ◆ SaaS(パブリッククラウド)と PaaS/IaaS(プライベートクラウド)の利用状況に大きな差は見られない。

利用するシステム毎に PaaS/IaaS(プライベートクラウド)の利用状況を尋ねたところ、基幹系(事業活動)システムが最も高く 47.1%、基盤系(インフラ関連)システムが最も低く 30.1%という結果になった。【図表 1-2】

【図表 1-2】 PaaS/IaaS(プライベートクラウド)の利用状況



*システム単位に調査した回答をシステム区分毎に合計しているため、N が母数より多くなっている。

2. クラウドに期待する効果

2.1 SaaS(パブリッククラウド)に期待する効果

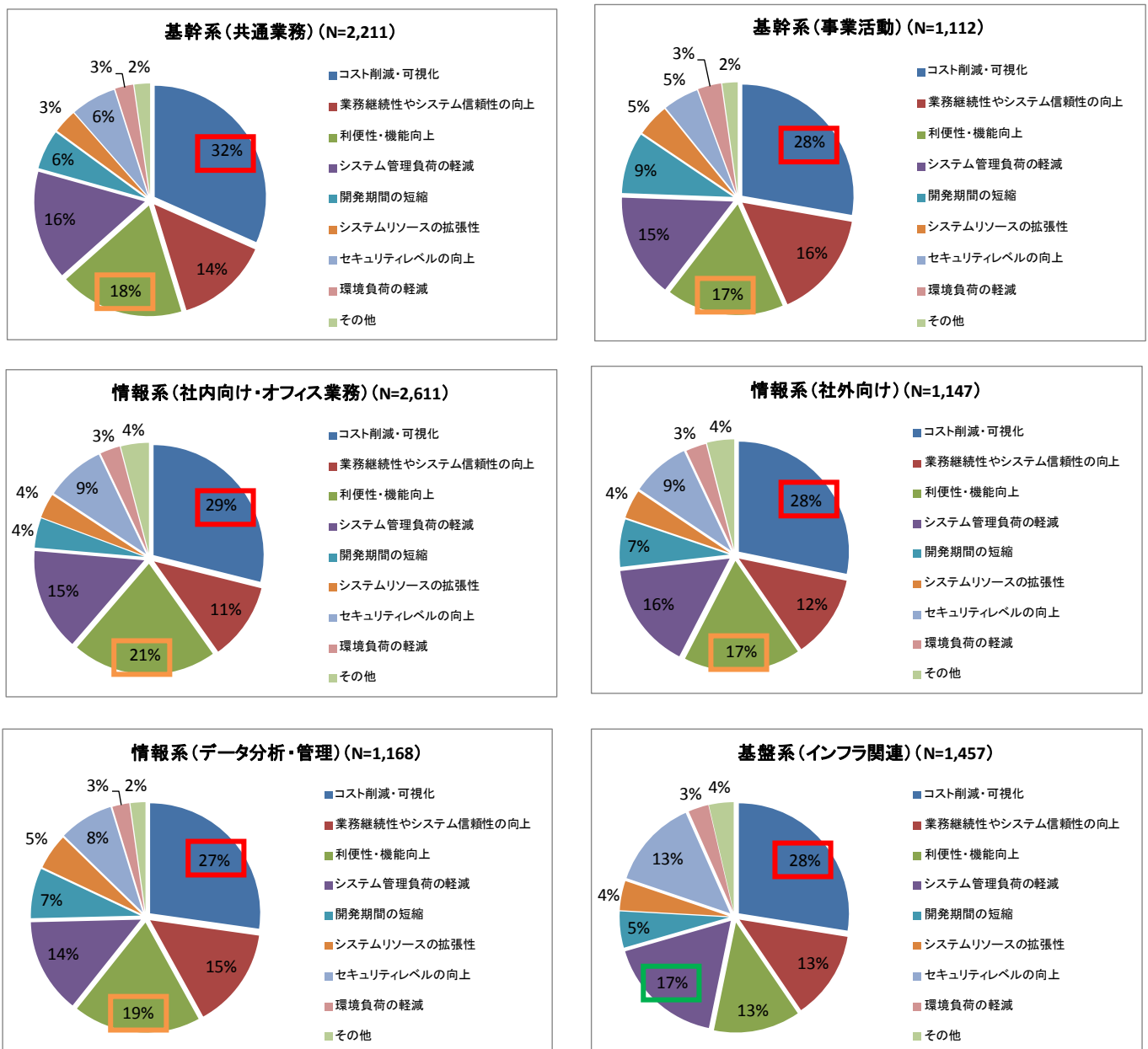
- ◆ SaaS(パブリッククラウド)に期待する効果は、システム種別を問わず、「コスト削減・可視化」が最も多い。次いで、「利便性・機能向上」、「システム管理負担の軽減」、「業務継続性やシステム信頼性の向上」に対する期待が上位となっている。
- ◆ SaaS(パブリッククラウド)に対する期待は、基幹系システム全般及び情報系システム全般では「利便性・機能向上」が大きいのに対し、基盤系(インフラ関連)システムでは「システム管理負担の軽減」に対する期待が大きいというように、システム種別による違いが存在した。

利用するシステム毎に「SaaS(パブリッククラウド)利用時に期待する効果(上位 2 つ)」を尋ねたところ、システムに関わらず「コスト削減・可視化」が最も多い結果となった。

基幹系システム全般(共通業務、事業活動)及び情報系システム全般(社内向け・オフィス業務、社外向け、データ分析・管理)においては、「コスト削減・可視化」に次いで、「利便性・機能向上」を期待する傾向にある。

基盤系(インフラ関連)システムでは、「コスト削減・可視化(28%)」に次いで、「システム管理負担の軽減(17%)」が期待されており、他のシステムと異なる。【図表 2-1】

【図表 2-1】 SaaS(パブリッククラウド)利用時に期待する効果



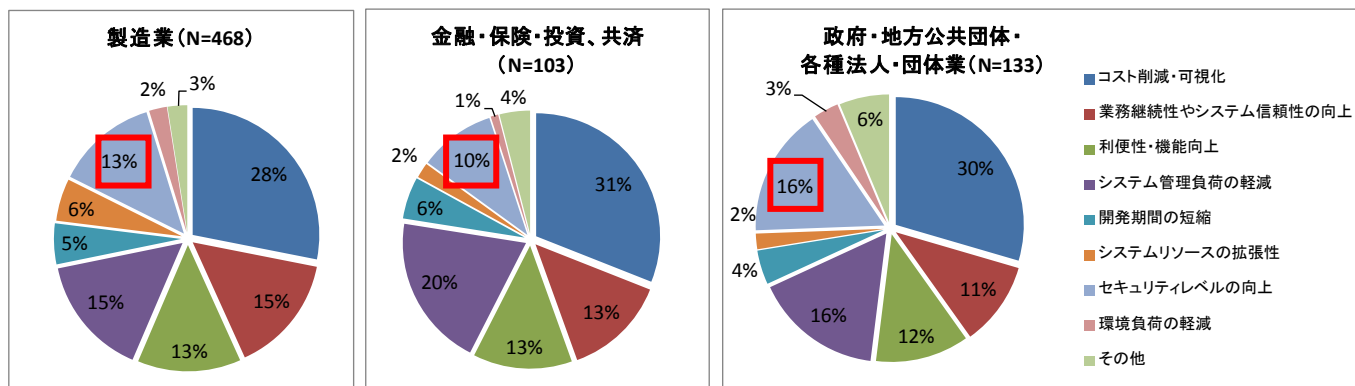
*システム単位に調査した回答をシステム区分毎に合計しているため、Nが母数より多くなっている。

◆ 公共分野では、基盤系（インフラ関連）システムの SaaS（パブリッククラウド）利用に、他業種と比べて「セキュリティレベルの向上」を期待する傾向が強い。

業界別にみると、基盤系（インフラ関連）システムにおいて、SaaS（パブリッククラウド）利用時に期待する効果に違いが見られた。

SaaS（パブリッククラウド）利用時に期待する効果として、「セキュリティレベルの向上」と回答した割合が製造業で 13%、金融・保険・投資、共済業で 10%と低かったのに対し、政府・地方公共団体・各種法人・団体業では 16%と、「コスト削減・可視化」に次いで回答数が多かった。【図表 2-2】

【図表 2-2】 基盤系（インフラ関連）を SaaS（パブリッククラウド）利用する際に期待する効果



2.2 PaaS/IaaS(プライベートクラウド)に期待する効果

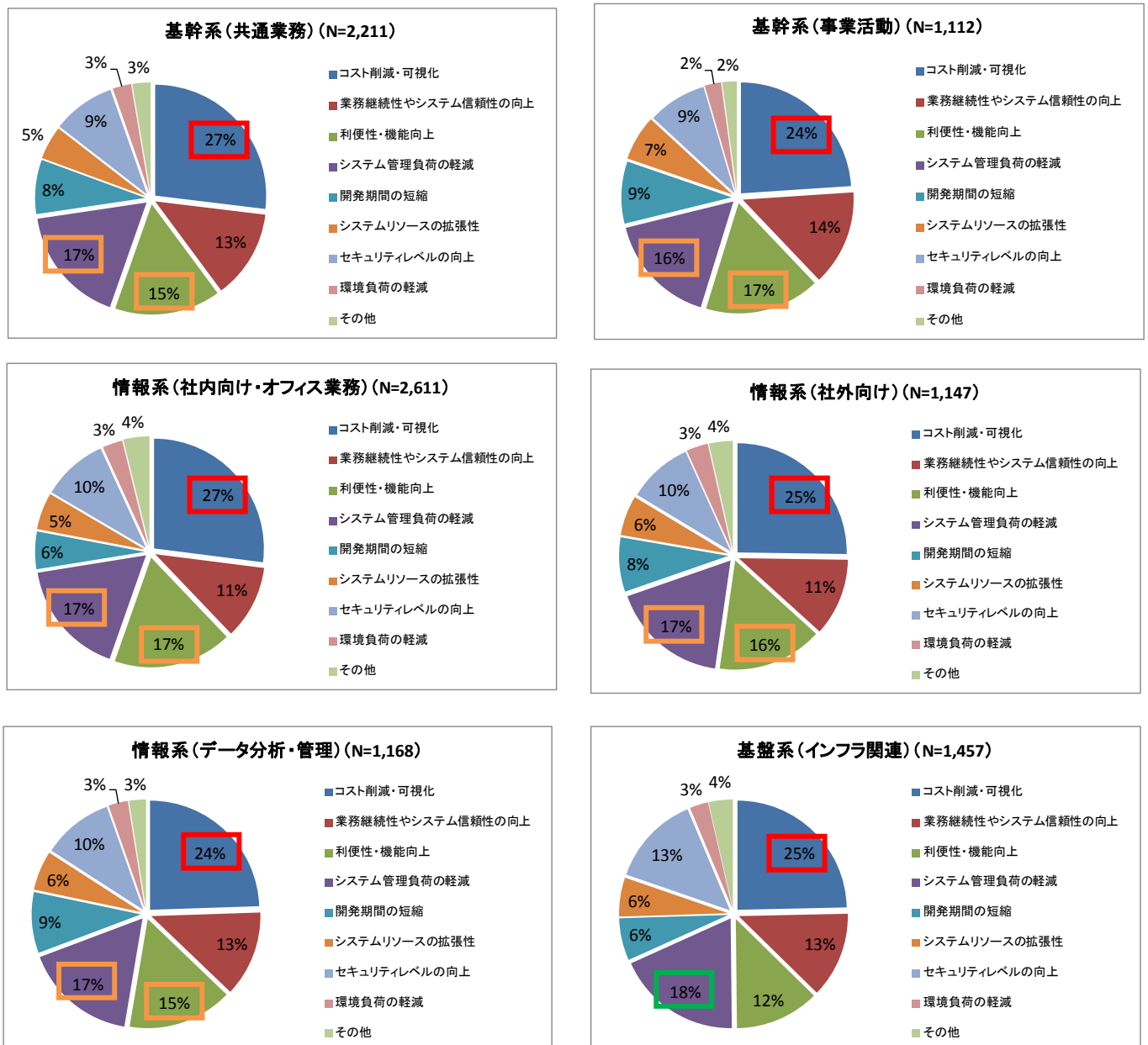
- ◆ PaaS/IaaS(プライベートクラウド)に期待する効果は、システム種別を問わず、「コスト削減・可視化」が最も多い。次いで、「利便性・機能向上」、「システム管理負荷の軽減」、「業務継続性やシステム信頼性の向上」に対する期待が上位となっている。
- ◆ PaaS/IaaS(プライベートクラウド)に対する期待は、基幹系システム全般及び情報系システム全般では「利便性・機能向上」及び「システム管理負担の軽減」が同程度に大きいのに対し、基盤系システム(インフラ関連)では「システム管理負荷の軽減」に対する期待が他の効果と比較して大きいというように、システム種別による違いが存在した。

利用するシステム毎に「PaaS/IaaS(プライベートクラウド)利用時に期待する効果(上位2つ)」を尋ねたところ、システムに関わらず「コスト削減・可視化」が最も多い結果となった。

基幹系システム全般(共通業務、事業活動)及び情報系システム全般(社内向け・オフィス業務、社外向け、データ分析・管理)においては、「コスト削減・可視化」に次いで、「利便性・機能向上」及び「システム管理負担の軽減」を同程度に期待する傾向にある。

基盤系システム(インフラ関連)においても、「コスト削減・可視化」に次いで、「システム管理負荷の軽減」を期待しているが、その割合は他の効果よりも大きい。【図表 2-3】

【図表 2-3】 PaaS/IaaS(プライベートクラウド)利用時に期待する効果



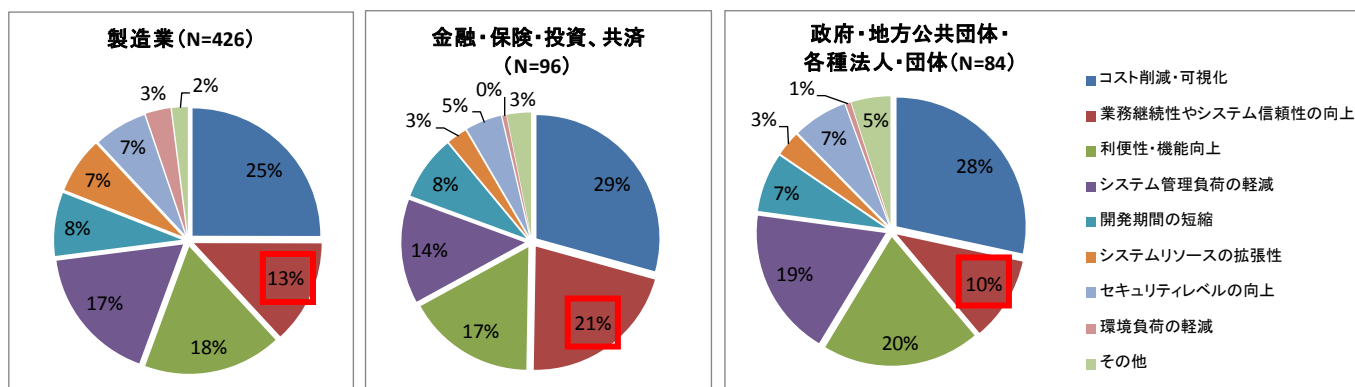
*システム単位に調査した回答をシステム区分毎に合計しているため、Nが母数より多くなっている。

◆ 金融分野は、基幹系(事業活動)システムの PaaS/IaaS(プライベートクラウド)利用に、他業種と比べて「業務継続性やシステム信頼性の向上」を期待する傾向が強い。

業界別にみると、基幹系(事業活動)システムにおいて、「PaaS/IaaS(プライベートクラウド)利用時に期待する効果」に違いが見られた。

PaaS/IaaS(プライベートクラウド)利用時に期待する効果として、「業務継続性やシステム信頼性の向上」と回答した割合が、製造業で 13%、政府・地方公共団体・各種法人・団体業で 10%と低かったのに対し、金融・保険・投資、共済業では 21%と、「コスト削減・可視化」に次いで回答数が多かった。【図表 2-4】

【図表 2-4】 基幹系(事業活動)を PaaS/IaaS(プライベートクラウド)利用する際に期待する効果



3. クラウド利用時に想定されるリスク

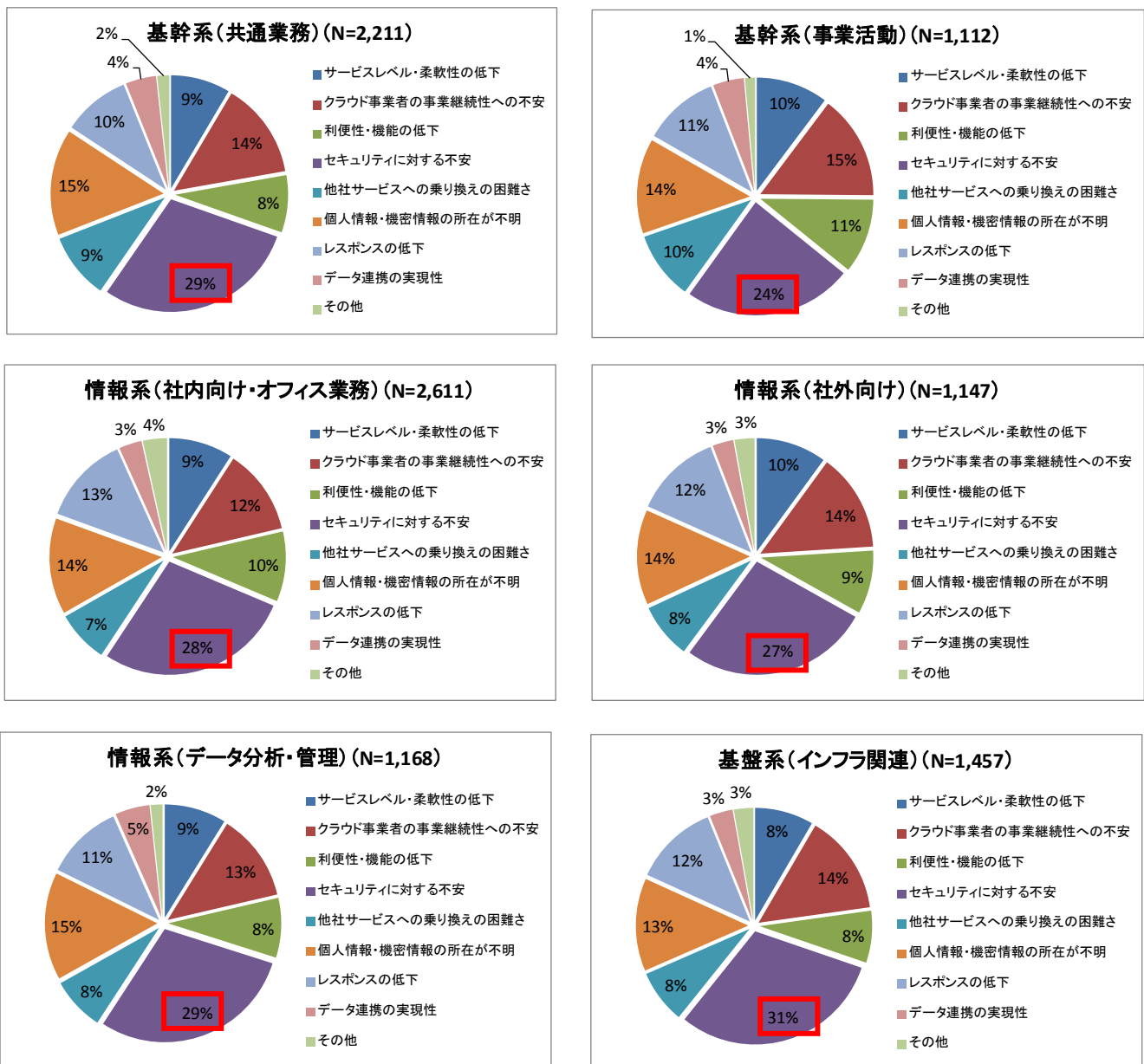
3.1 SaaS(パブリッククラウド)利用時に想定されるリスク

◆ SaaS(パブリッククラウド)利用時に想定されるリスクは、システム種別を問わず、「セキュリティに対する不安」が最も多い。次いで「個人情報・機密情報の所在が不明」、「クラウド事業者の事業継続性への不安」、「レスポンスの低下」等のリスクが上位となっており、システム種別による違いは見られなかった。

利用するシステム毎に「SaaS(パブリッククラウド)利用時に想定されるリスク(上位 2 つ)」を尋ねたところ、システムに関わらず「セキュリティに対する不安(24~31%)」が最も多い結果となった。

次いで、「個人情報・機密情報の所在が不明(13~15%)」、「クラウド事業者の事業継続性への不安(12~15%)」、「レスポンスの低下(10~13%)」が多かった。【図表 3-1】

【図表 3-1】 SaaS(パブリッククラウド)利用時に想定されるリスク



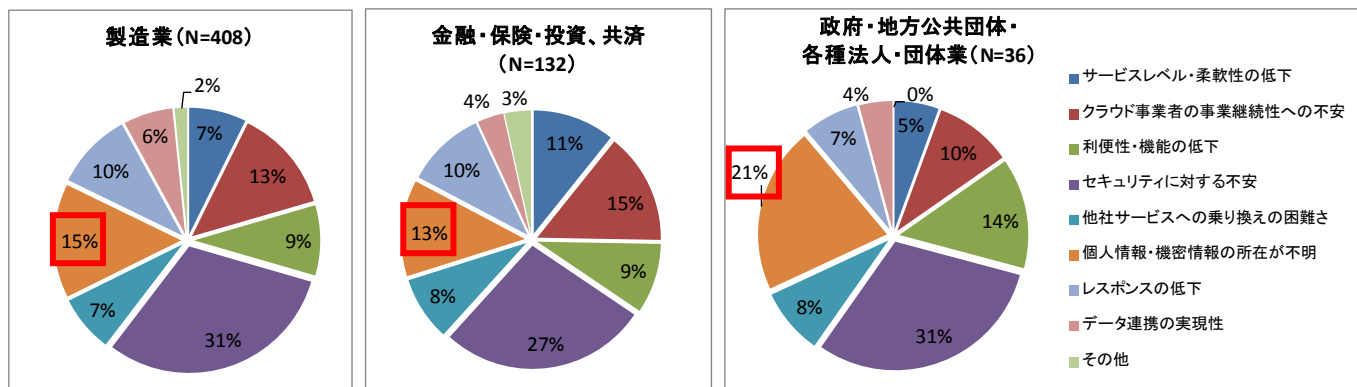
*システム単位に調査した回答をシステム区分毎に合計しているため、Nが母数より多くなっている。

◆ 公共分野では、情報系(データ分析・管理)の SaaS(パブリッククラウド)利用に、他業種と比べて「個人情報・機密情報の所在が不明」であることをリスクに感じる傾向が強い。

業界別にみると、情報系(データ分析・管理)システムでは、「SaaS(パブリッククラウド)利用時に想定されるリスク」に違いが見られた。

SaaS(パブリッククラウド)利用時に想定されるリスクとして、「個人情報・機密情報の所在が不明」と回答した割合が、製造業で 15%、金融・保険・投資、共済業で 13%であったのに対し、政府・地方公共団体・各種法人・団体業では 21%と高くなっており、「セキュリティに対する不安」に次いで回答数が多かった。【図表 3-2】

【図表 3-2】 情報系(データ分析・管理)を SaaS(パブリッククラウド)利用する際に想定されるリスク



3.2 PaaS/IaaS(プライベートクラウド)利用時に想定されるリスク

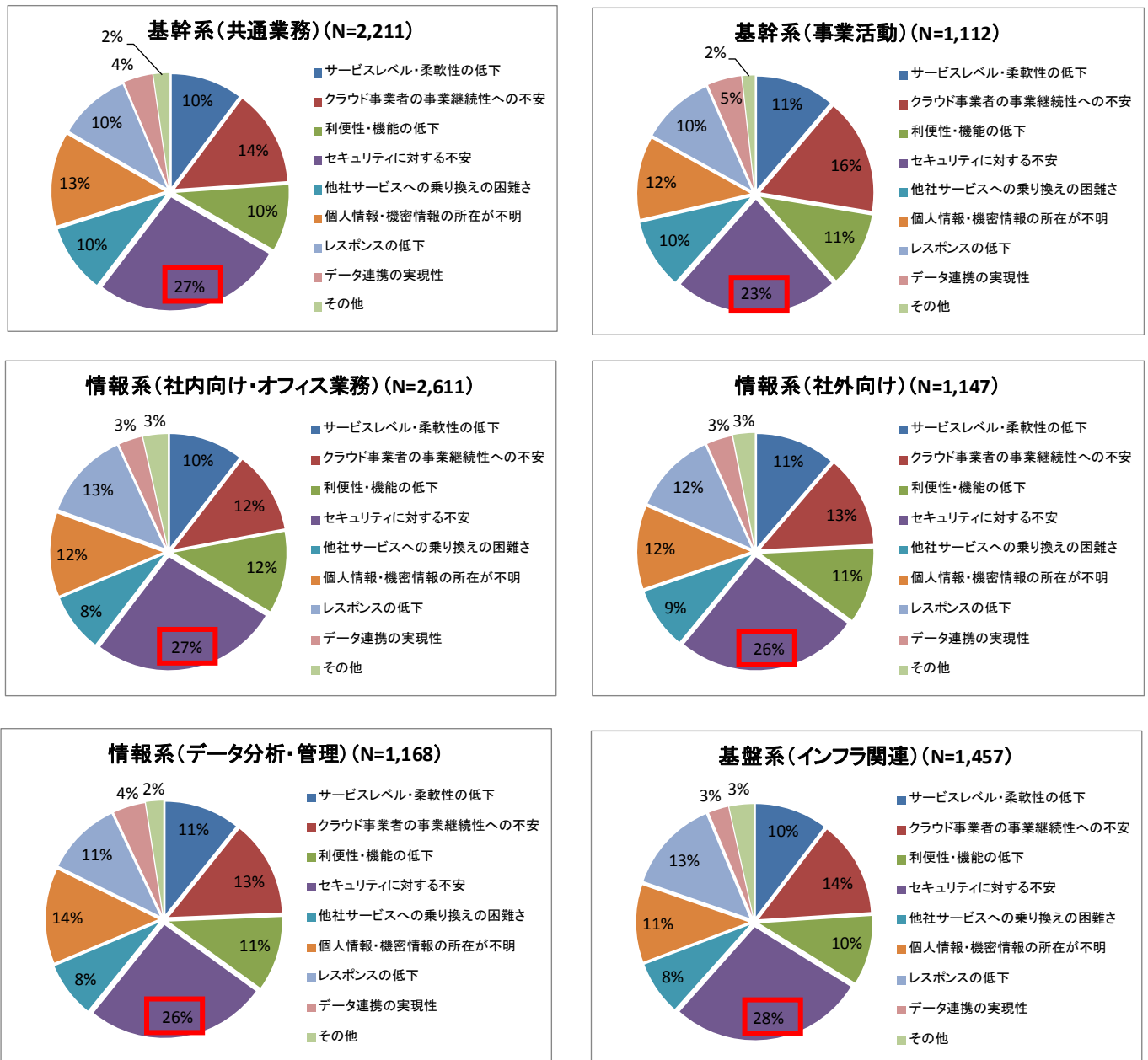
- ◆ 「SaaS(パブリッククラウド)」と「PaaS/IaaS(プライベートクラウド)」では、想定されるリスクに大きな違いは無く、システム種別を問わず、「セキュリティに対する不安」が最も多かった。

利用するシステム毎に「PaaS/IaaS(プライベートクラウド)利用時に想定されるリスク(上位2つ)」を尋ねたところ、システムに関わらず「セキュリティに対する不安(23~28%)」が最も多い結果となった。

次いで、「個人情報・機密情報の所在が不明(11~14%)」、「クラウド事業者の事業継続性への不安(12~16%)」、「レスポンスの低下(10~13%)」が多かった。

全体的には、「SaaS(パブリッククラウド)」と「PaaS/IaaS(プライベートクラウド)」を比較して、大きな違いは見られなかった。【図表 3-3】

【図表 3-3】 PaaS/IaaS(プライベートクラウド)利用時に想定されるリスク



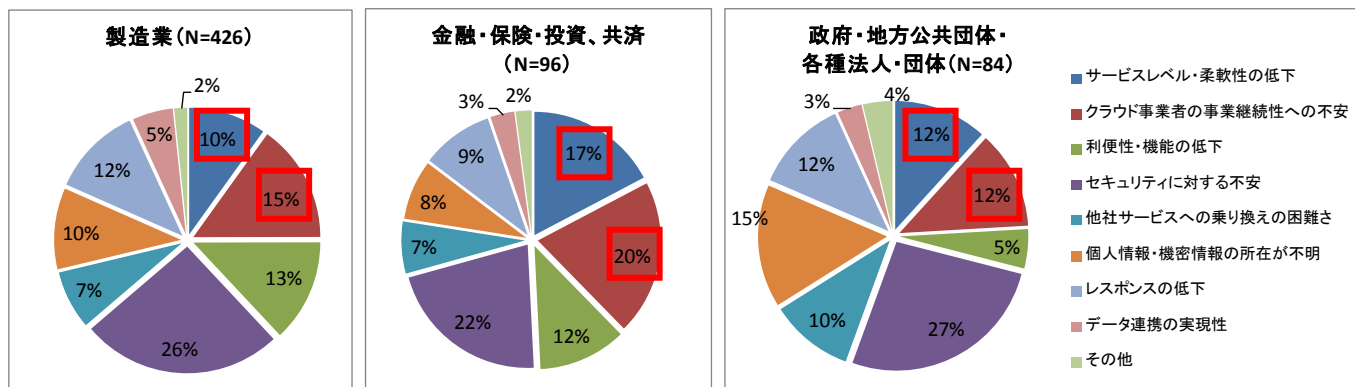
*システム単位に調査した回答をシステム区分毎に合計しているため、Nが母数より多くなっている。

◆ 金融分野では、基幹系(事業活動)システムの PaaS/IaaS(プライベートクラウド)利用に、他業種と比べて、「クラウド事業者の事業継続性への不安」と「サービスレベル・柔軟性の低下」をリスクに感じる傾向が強い。

業界別にみると、基幹系(事業活動)システムでは、「PaaS/IaaS(プライベートクラウド)利用時に想定されるリスク」に違いが見られた。

また、「クラウド事業者の事業継続性への不安」、「サービスレベル・柔軟性の低下」というリスクに対して、金融・保険・投資、共済業では、製造業や政府・地方公共団体・各種法人・団体業と比べて、5%以上高くなっている。【図表 3-4】

【図表 3-4】 基幹系(事業活動)を PaaS/IaaS(プライベートクラウド)利用する際に想定されるリスク



4. クラウドの利用に至った理由

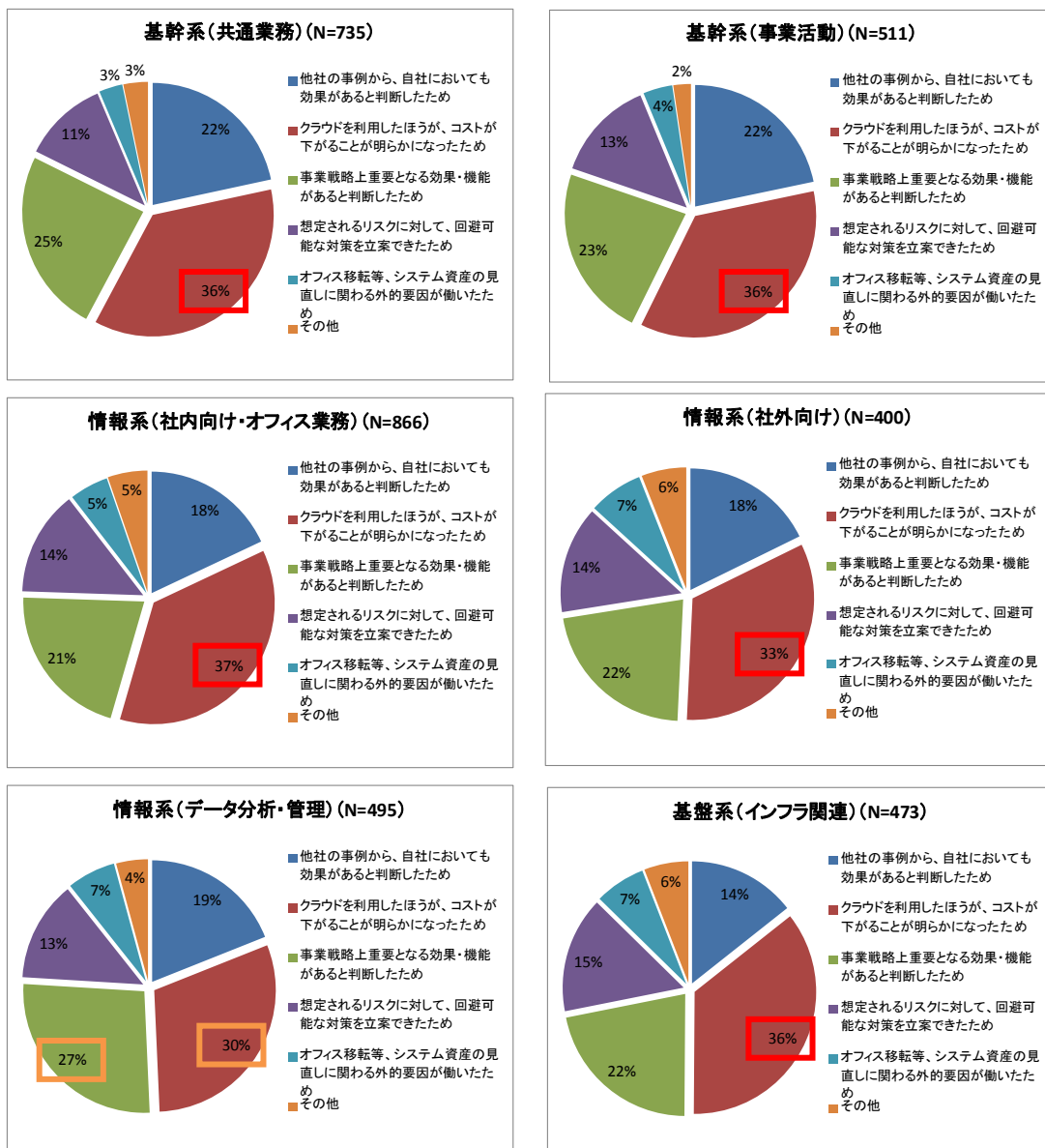
4.1 SaaS(パブリッククラウド)の利用に至った理由

- ◆ SaaS(パブリッククラウド)の利用に至った理由は、システム種別を問わず、「コストが下がることが明らかになったため」が最も多い。
- ◆ 情報系(データ分析・管理)システムは、SaaS(パブリッククラウド)の利用に至った理由として、「事業戦略上重要となる効果・機能があると判断したため」という回答の割合が大きく、コスト以外の要因が利用可否の判断に大きく関わっている。

SaaS(パブリッククラウド)を利用している企業に対して「利用に至った理由」を尋ねたところ、システムに関わらず「クラウドを利用したほうが、コストが下がることが明らかになったため」、「事業戦略上重要となる効果・機能があると判断したため」、「他社の事例から、自社においても効果があると判断したため」の順で回答が多かった。

なかでも、情報系(データ分析・管理)システムについては、「クラウドを利用したほうが、コストが下がることが明らかになったため(30%)」と「事業戦略上重要となる効果・機能があると判断したため(27%)」が同程度の割合であった。【図表 4-1】

【図表 4-1】 SaaS(パブリッククラウド)利用に至った理由

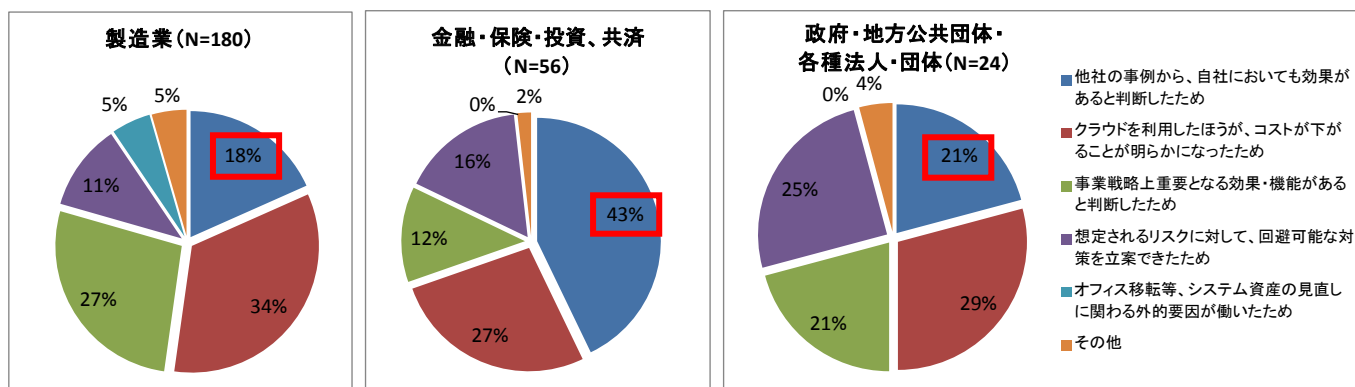


◆ 金融分野では、基幹系(事業活動)システムを SaaS(パブリッククラウド)利用する際、他業種と比べて他社の事例が判断理由となっている傾向が強い。

業界別にみると、基幹系(事業活動)システムにおいて、「SaaS(パブリッククラウド)を利用した理由」に違いが見られた。

基幹系(事業活動)システムに SaaS(パブリッククラウド)を利用した理由として、「他社の事例から、自社においても効果があると判断したため」の割合が、製造業で 18%、政府・地方公共団体・各種法人・団体業で 21%と低かったのに対し、金融・保険・投資、共済業では 43%と最も多くなっている。【図表 4-2】

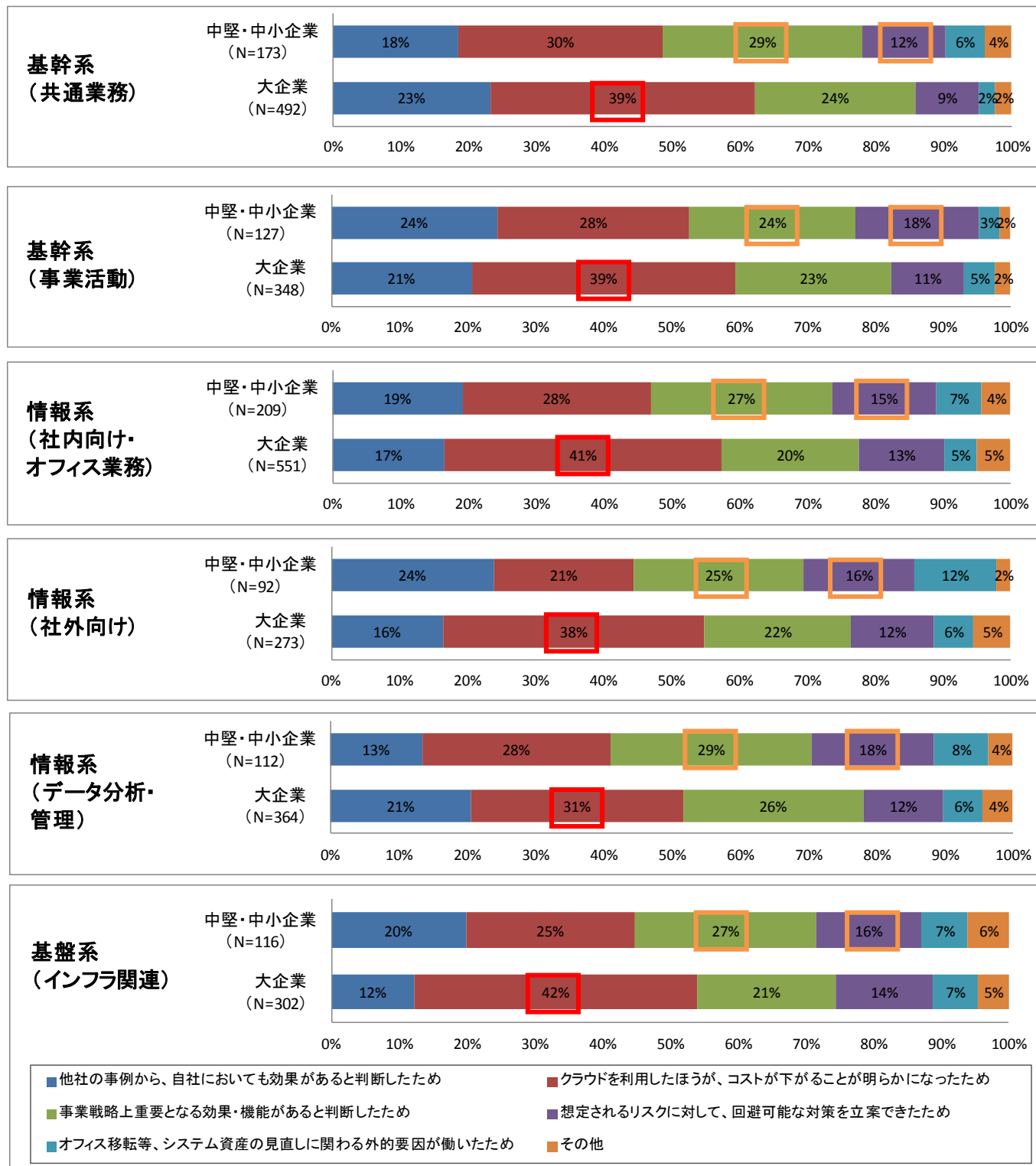
【図表 4-2】 基幹系(事業活動)に SaaS(パブリッククラウド)を利用した理由



◆ SaaS(パブリッククラウド)利用の判断理由として、大企業はコストを重視し、中堅・中小企業は事業への貢献を重視する傾向が強い。

企業規模別にみると、大企業のほうが「クラウドを利用したほうがコストが下がることが明らかになった」ことをクラウド利用の判断理由にしている割合が大きく、中堅・中小企業では「事業戦略上重要な効果・機能があると判断したため」、「想定されるリスクに対して回避可能な対策を立案できたため」と、コスト以外も重視する傾向にある。【図表 4-3】

【図表 4-3】 SaaS(パブリッククラウド)の利用に至った理由(企業規模別)



※中堅・中小企業:資本金 10 億円未満の企業
 ※大企業:資本金 10 億円以上の企業

4.2 PaaS/IaaS(プライベートクラウド)の利用に至った理由

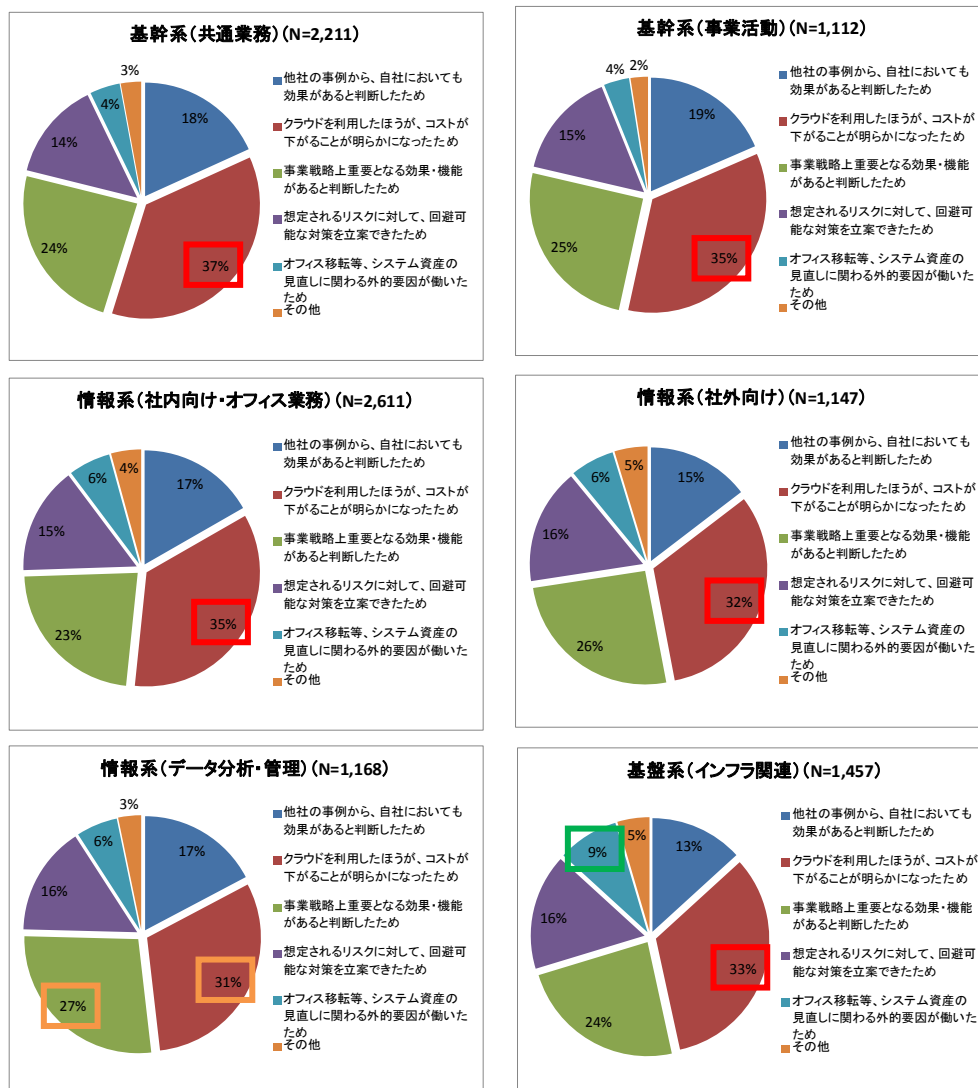
- ◆ PaaS/IaaS(プライベートクラウド)の利用に至った理由は、システム種別を問わず、「クラウドを利用したほうが、コストが下がることが明らかになったため」が最も多い。
- ◆ 情報系(データ分析・管理)システムは、PaaS/IaaS(プライベートクラウド)の利用に至った理由として、「事業戦略上重要となる効果・機能があると判断したため」という回答の割合が大きく、コスト以外の要因が利用可否の判断に大きく関わっている。
- ◆ 基盤系(インフラ関連)システムでは、他システムに比べて「オフィス移転等、システム資産の見直しに関わる外的要因が働いたため」の割合が3%~5%程度高くなっている。

PaaS/IaaS(プライベートクラウド)を利用している企業に対して、「利用に至った理由」を尋ねたところ、システムに関わらず「クラウドを利用したほうが、コストが下がることが明らかになったため」、「事業戦略上重要となる効果・機能があると判断したため」、「他社の事例から、自社においても効果があると判断したため」の順で回答が多かった。

なかでも、情報系(データ分析・管理)システムについては、「クラウドを利用したほうが、コストが下がることが明らかになったため(31%)」と「事業戦略上重要となる効果・機能があると判断したため(27%)」が同程度であり、情報系(データ分析・管理)システムのクラウド利用は、コスト以外の要素が利用可否の判断に大きく関わっていることが分かった。

また、基盤系(インフラ関連)システムについては、他システムに比べて「オフィス移転等、システム資産の見直しに関わる外的要因が働いたため」の割合が3%~5%程度高くなっていた。【図表 4-4】

【図表 4-4】 PaaS/IaaS(プライベートクラウド)利用に至った理由



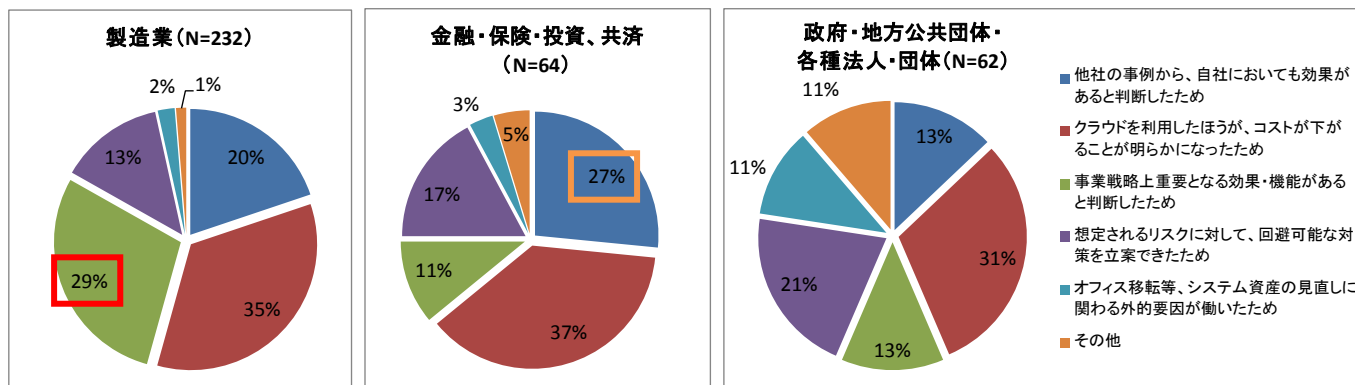
*システム単位に調査した回答をシステム区分毎に合計しているため、Nが母数より多くなっている。

◆ コスト以外にも、基幹系システムの PaaS/IaaS(プライベートクラウド)利用の判断において、製造業は事業に貢献する機能を重視し、金融業界は他社事例を重視する傾向にある。

業界別にみると、基幹系(共通業務)システム、基幹系(事業活動)システムにおいて「PaaS/IaaS(プライベートクラウド)を利用した理由」に違いが見られた。

製造業では「事業戦略上重要となる効果・機能があると判断したため」の割合が 29%・34%と大きな割合を占めたのに対し、金融・保険・投資、共済業では、「他社の事例から、自社においても効果があると判断したため」の割合が 27%・30%と大きくなっている。【図表 4-5】【図表 4-6】

【図表 4-5】 基幹系(共通業務)に PaaS/IaaS(プライベートクラウド)を利用した理由



【図表 4-6】 基幹系(事業活動)に PaaS/IaaS(プライベートクラウド)を利用した理由

